

新聞から見る立ち上げ当時の 平和展（原爆展）

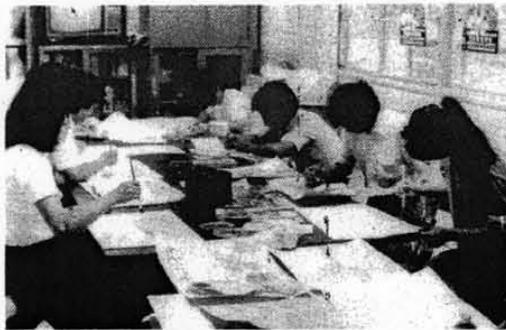
▼目をそむけないで 邑楽町できょうまで「原爆展」
(上毛新聞 1982.8.15)



邑楽町で開かれた「原爆展」

「戦争、核、侵略をして平和をした写真」百点が展示され「ピカド」や「侵略」にけんかかえせ」などの映画も上映された。会場には子供たちに戦争の恐ろしさを教える母親の姿も目立った。十五日には午後七時から音楽を通して反核平和を訴える吟遊詩人、古川繁を招いての反核コンサートも催される。

▼反戦紙しばいを手づくり「第2回平和展」(上毛新聞 1983.8.14)



紙しばいをつくる実行委員ら

邑楽郡邑楽町の職員労組青年部員らで構成している平和展実行委(大曲一委員長、委員十八人)は、終戦記念日をあすにかえ手作りの反戦紙しばいの製作に取り組んでいる。題材は、いずれ既刊の児童書からとっているが、実行委では「この紙しばいの話を知ってもらいたいので町の小学生や幼児に戦争の悲惨な児童書を貸し出すのを、幼稚園の保育さんらにわかりやすく話してもらおう」といふ。

邑楽郡邑楽町の職員労組青年部員らで構成している平和展実行委(大曲一委員長、委員十八人)は、終戦記念日をあすにかえ手作りの反戦紙しばいの製作に取り組んでいる。題材は、いずれ既刊の児童書からとっているが、実行委では「この紙しばいの話を知ってもらいたいので町の小学生や幼児に戦争の悲惨な児童書を貸し出すのを、幼稚園の保育さんらにわかりやすく話してもらおう」といふ。

五月五日から構想をわり、約二週間前下絵描きなどに着手。おのづから「ピカド」などの内容を深めたいと話していた。なお、この平和展は「東京大空襲」や「原爆」の記録写真、食品公害の資料なども展示される。

反戦紙しばいを手づくり 児童書題材に33枚

邑楽町職員 労働青婦部

昭和58年(1983年)8月18日(木曜日) (12)

地域ニュース

邑楽

邑楽町で開かれた平和展に延べ千人

邑楽町公民館でこのほど、二日間わたって「平和展」が開かれ、戦争の悲惨さを伝える東京空襲二原爆の記録写真などに延べ約千の町民が接し二度と核戦争の恐ろしさを反省を新たにした。

これは、邑楽町職員労組青年部の平和実行委(大曲一委員長)が「反戦平和」を願い開いたもの。

会場には戦争写真のパネルのほか、丸木美術館所蔵の「原爆図」のミニチュア版十五組も展示された。また、反戦映画や手作り紙しばいも好評で、小学生らも保護者の説明に熱心に耳を傾けていた。



邑楽町で開かれた「平和展」

▲邑楽町で開かれた平和展に延べ千人「第2回平和展」(上毛新聞 1983.8.18)

「悲惨な戦争 くり返すまい」

邑楽町で平和展

終戦記念日控え、邑楽町職員労組は、十一、十二日の二日間、同町公民館で「平和展」を開催、町民にあらためて悲惨な戦争をくりかえさないようにしよ」と訴えた。

同展には、核ミサイル「トマホーク」の実物大の模型や「南京虐殺」などを伝えるパネルが展示されたほか、台成洗剤や化粧品は安全か」など

邑楽町の「平和展」



をテーマにした研究レポートが報告された。航空写真を使って「邑楽町にトマホークが命中した場合は六・六以内の生物はすべて死亡する」との説明に、「こわいね」と肩をすぼめる小、中学生の姿がめだつた。

▲悲惨な戦争くり返すまい「第3回平和展」(上毛新聞 1984.8.15)